

平成24年度 第2回児童福祉専門分科会 議事要旨

日 時	平成24年11月29日(木) 15:00~16:15
場 所	総合庁舎5階 コミュニティルーム
出席者	(委 員)中川千恵美、岡修一郎、奥山知也、小野剛、勝山真介、 辻本謙嗣、 (事務局)子どもすこやか部 田村 子ども家庭室 奥野 子ども家庭課 川西、高木 子ども子育て支援課 杉本 子ども見守り課 西島 保育室 寺岡 保育課 関谷
議 題	1. 児童福祉施設の条例制定について 2. 東大阪市次世代育成支援行動計画(後期)平成23年度事業実施状況公表案について 3. 第二次東大阪市ひとり親家庭自立促進計画平成23年度事業実施状況公表案について 4. その他
議事内容	(開会) 事務局 ・児童福祉施設の条例制定について 保育所職員配置にかかる新基準について説明 委員 ・財源の配分の問題があるので、丁寧に執行していくということ理解していただくように努めていただけるのなら了解。 委員 ・現行の公立保育所の数字だけを見て、それだけを取り上げると減っているような感じもするが、どこかで一定の基準を示さないといけないということになってくる。私の方はこれで了解。 委員 ・パブリックコメントについて、例えば園庭開放を増やしてほしいというのは、保護者の方に対して園庭を使えるようにしてほしいということか。地域の方に開放してほしいということか。

事務局

- ・民間保育園や公立保育所の園庭を使わない時に限って在宅の方に来てもらい、その中で育児相談ができるのであればしていただくというもの。

委員

- ・障害のある子どもさんに対する加配をどのように考えていくのか。財源の問題はあると思うが。

事務局

- ・障害児加配については変えることは考えていない。

委員

- ・今までの各クラスの複数担任制というのは、これで算定すると完全にできなくなるがそのあたりの検討ということになる。

会長

- ・新基準ということで、民間基準においても国基準を上回るものであるということ、公私間格差を是正したということ、同時に0から3歳の8割くらいの在宅にいる子どもたちの地域の支援に充当していきたいということに含まれた適正な財源配置ということで供給体制を広げていく市のビジョンを提示していただくと市民のみなさんに分かっていただけるのではないかと。

委員

- ・市の加配で二人というのは多いのですか。市の規模にもよるかと思いますが。

事務局

- ・東大阪市は頑張らせてもらっている。

事務局

- ・「東大阪市次世代育成支援行動計画（後期）平成23年度事業実施状況公表案について」「第二次東大阪市ひとり親家庭自立促進計画平成23年度事業実施状況公表案について」説明

会長

- ・ひとり親家庭自立促進計画であげられている家庭での養育を支えるサービスの充実「ファミリー・サポート・センター事業」というところに記載され

ている数字というのは、ひとり親の方でファミリーサポートを何人使ったかという理解なのか。

事務局

- ・ひとり親の方に限らず全員。

委員

- ・相談事業や訪問事業、各種支援事業に関して予算拡充、人員の拡充等、非常に頑張っていたと思うが、拡充した分の中味、質的な部分をそろそろ検証し、見直していくという時期に来ているのではないかと思う。

委員

- ・次世代育成支援計画・ひとり親家庭自立促進計画で、以前からこういうかたちで報告を出されていると思うが、個別の事業は前年度対比ということで、ひとつひとつは分かるが、どのように変わったのか、どのように改善されたのかのコメントがあった方がより分かりやすい。例えば、児童虐待防止事業について、22年度751件、23年度811件と増えているが、虐待が増えたのか、それに関しての相談が増えたのかというところでは、分かりにくい。増えたのがいいことなのか、悪いことなのか、市民の方からみてどう判断したらいいのか、コメントで細かい説明してもらった方が理解しやすいのではないかと感じる。

事務局

- ・疑いもすべて含め受理した件数。実際、虐待として台帳にあがってくる子どもさんは少し減った。

委員

- ・事業報告となると件数をあげるとというのが大きな仕事になる。その件数に隠れて見えない部分をどのように見ていくのかということでは、見る方の力量を問われるところかと思う。こういう報告書について言うと具体的な数値で挙げないと報告書にならないため仕方がないところかと思う。

(児童虐待の話で)通報があった場合、最初はどこが受けて、受け切れなければ次にどこで受けて、最終的にどこが責任を持つのかというシステムをつくっていく必要がある。

会長

・子育てハッピーメールのアクセス数、冊子「こそだてプラス」配布数、配布場所は。

事務局

・子育てハッピーメールについては、現在登録の方が371人で徐々に増えている。冊子の配布数はカウントしていないが、多くの人に取りに来ていただいている。支援センターや保育所に設置している。

会長

・報告のあり方、実践レベルで報告したものを次の実践にどう繋げていくかという課題も提起され、私たちもそれを意識しておかなければと思う。

(閉会)